

## 数字でみるミャンマーの現在 -- 三一年ぶりの人口 ・住宅センサス概観 (ライブラリ・コーナー)

著者	小林 磨理恵
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	242
ページ	53-53
発行年	2015-11
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2344/00003080">http://hdl.handle.net/2344/00003080</a>

## 数字でみるミャンマーの現在

### —三一年ぶりの人口・住宅センサス概観—

小林 磨理恵

ミャンマーの二〇一四年人口・住宅センサスの結果が、二〇一五年五月に公表された (*The 2014 Myanmar Population and Housing Census: the Union Report*)。これは実に三一年ぶりのセンサスであり、ミャンマーの人口動態や社会・経済状況を知るうえで最も基本的な資料となる。

本稿では、最新のセンサスから、ミャンマーの現在の一端を捉えてみたい。

センサスの質問票から調査項目をみてみよう。調査項目は表1のとおりである。特筆すべきは、このうち宗教と民族の調査結果だけが公表されていない点である (二〇一五年九月現在)。この要因には、①予想を大きく上回る人々が、リスト化された政府公認の二三五の民族から選択せずに、「その他」として自身の民族名称を記入したため、その入力に手間取っていること、②二〇一五年一月月の総選挙を前に、民族・宗教対立のリスクを避けたい政府の意向があることが指摘されている<sup>1)</sup>。また、イスラーム教徒ロヒンギャの人々は、民族名称をロヒンギャと記入することを政府に認められず、そ

の多くがセンサスの回答をボイコットした。ここに民族集団を統計化することの政治性と危うさが、改めて浮き彫りになる。

まず、人口動態をみてみたい。人口総数は、五一四八万人である (紛争により未調査の地域の推計人口を含む)。近年「六〇〇〇万人の新市場」として注目を集めていたミャンマーだが、政府や国際機関の推計人口より、一〇〇〇万人近く下回っていたことになる。人口密度が最も高い都市はヤンゴン管区域 (七一六人/㎢) であり、次に高いマンダレー管区域 (二〇〇人/㎢)、エーヤーワディー管区域 (一七七人/㎢) の人口密度と比較すると、ヤンゴンへの人口集中が際立つ。人口性比 (女性一〇〇人に対する男性の数) は九三であり、男性が女性の数を上回るのはカチン州 (性比一〇八) のみである。合計特殊出生率は二・三 (都市部は一・八、農村部は二・五) である。最も出生率の高い地域はチン州で四・四、最も低いのはヤンゴンで一・七であり、地域間に差があることに注意したい。世帯

規模は、全国平均で四・四人であり、ここには地域間に大差はみられない。

センサス実施時にミャンマー国外に居住していた人の数は、約二〇〇万人である。その五三%が女性であり、「家族に同行」が女性の移住理由の四九%、「就労」が二三%を占める。また、男性の移住理由は「就労」が四七%と最も多い。国外移住者の七〇%がタイ、一五%がマレーシアに居住しており、タイが移住先として圧倒的に多く選ばれている。

識字能力の状況に目を転じたい。識字率の全国平均は八九・五% (男性は九二・六%、女性は八六・九%) である。都市部は九五・二%、農村部は八七%であり、やはり差がある。識字率が高い地域はヤンゴン (九六・六%)、ネーピドー (九四・四%)、一方で低いのはシャン州 (六四・六%) である。シャン州では女性の識字率が五九・四%ととりわけ低い。

最後に、飲料水の取得方法をみてみよう。ミャンマー全国では掘り抜き井戸を最も多く

使用している (三一・四%)。水道水は九%の世帯が使用するのみである。都市部に限定すると、浄水器・ボトル入り飲料水が最も多く使用されている (三一・三%)。一方それらの使用は、農村部ではわずか二%に止まっている。農村部では掘り抜き井戸 (三一・八%)、保護された井戸 (二・八%) が多く使用されており、生活の状況が都市部と農村部で大きく異なることが、飲料水を例にとってもよく分かる。

(こぼやし まりえ/アジア経済研究所 図書館)

《注》  
(1) "Census ethnicity data release delayed until after election," *Myanmar Times*, Aug. 4, 2014.

表1 2014年センサスの調査項目

基本項目	氏名、世帯主との続柄、性別、年齢、婚姻状況、宗教、民族、障害の有無、身分証明書の種別
居住・移住	出生地、現在の居住地、当地での居住期間、移住した理由、以前の居住地
教育	読み書き能力、就学状況、最終学歴
就労	過去12カ月の活動、過去12カ月の職業、過去12カ月に就労した組織・企業が提供する主な製品・サービス
出産	出産した子どもの数、同居する子どもの数、別居する子どもの数、死亡した子どもの数、最近出産した子どもの誕生年月、その子どもの性別、その子どもの生存の有無
住宅	住宅の種類、住宅の所有者、光源燃料、飲料水・用水の給水源、調理用燃料、トイレの種類、屋根・外壁・床の主な建築資材、家財 (ラジオ、テレビ、電話など) の所有
外国に居住する家族	外国に居住する家族成員の数、その氏名、世帯主との続柄、年齢、性別、出国年、居住国
家族の死亡	過去12カ月に死亡した家族成員の数、その氏名、性別、死亡時の年齢、過去12カ月の15~49歳の女性の死亡時の状況 (妊娠中・分娩中・出産後6週間以内)

(出所) *The 2014 Myanmar Population and Housing Census: the Union Report* より筆者作成。